

■第1回目の講座は6月4日(土)大阪南港 ATC グリーンエコプラザのセミナールームで開催しました。

冒頭の当協会村山理事長挨拶の様子です。

講座の簡単な趣旨や、受講生への労いの言葉を述べました。



そしてスタッフによる講座の趣旨や流れを説明後、基調講演と致しまして「衰退する大阪の生物多様性～チョウたちとまもる里山～」を、大阪府立大学名誉教授の石井実先生にご講演頂きました。



先生は、生物多様性や外来生物の話、里山林についてなど、講座で訪れる予定の、能勢にある「三草山」の生物多様性を例に、この日の参加者19名に向けてご解説されました。

生物多様性の基本のお話や、その恵みを受けて私たちの暮らしは支えられているという話、更に、ここでしか聞けないような生物多様性の保護に関する最前線のお話があり、参加者は熱心に聞き入っていました。



次に、ボランティア協会2団体による大阪府内の自然環境の保全地の紹介です。
これから養成講座でお世話になる活動地の取り纏めもされています。

まずは公益財団法人大阪みどりのトラスト協会 飯野博道さんによる保全活動地のご紹介です。
大阪みどりのトラスト協会さんは、「みどりの未来を わたしたちの手で」というキャッチフレーズを
合言葉に、主に大阪府内の自然環境保全、緑の募金による緑化の推進、森林 ESD の推進などを
されています。

学生ボランティア養成講座でもお世話になる活動地の話も出て、参加者の皆さんはその興味深い
内容にスクリーンに視線を集めていました。

参加者からの「CSR 活動は何の略か」という質問には、「Corporate Social Responsibility つまり企
業が倫理的観点から事業活動を通じて、ボランタリーに社会に貢献する責任のことで、企業によっ
て取組の仕方は様々。」という回答がされました。



そして公益社団法人大阪自然環境保全協会 大塚陽一さんによる保全活動地のご紹介です。里山の開発・荒廃の話から始まり、大阪自然環境保全協会設立の経緯、里山保全活動グループの誕生、そして20数年経過して浮かび上がる課題などの説明のあと、学生ボランティア養成講座でお世話になる活動地などの紹介がありました。

参加者の皆さんは、自然環境保全において次世代の育成は非常に重要で、様々な人と繋がり積極的に参加する事が重要ということが理解できました。



後半はアイスブレイクの時間です。

これから始まる現地での保全活動を前に、共に活動していく仲間と事前に交流を行うことでまずは仲良くなってもらえるよう促します。

「4つの窓」という手法を用いて自己紹介をして貰い、更にお互いの趣味嗜好を知って貰えるよう、以下の内容をA3用紙に記入して6~7人程度のグループ内で共有しました。

学校名と 学部 学科	名前と フィールドネーム
興味のある自然 のジャンル <small>(植物、鳥、虫、魚などを書いてネ)</small>	ボランティア経験と 先程聞いた活動地 で興味のある内容

参加者の皆さんは、自身と共通点が見つかったりすると盛り上がって会話に花を咲かせていました。



講座開始時は一人での参加が多く物静かな参加者の皆さんでしたが、講座終了後の帰り道は、数人で幾つかに纏まって笑顔で話しながら会場を後にする様子が見受けられました。

オンラインでその日に回収したアンケートでは、「初回に関連のある講座を受けられたのが次回以降の活動にも活かせる内容です良かった。」「とても分かりやすい説明で、この活動でどのようなことをするのかをより具体的に知ることが出来ました。残りの5回もよろしくお願いします。」といった感想や、「これからの講座をしっかりと聞いて、1番興味を持った団体に入りたいです!」「このボランティア経験を自分の成長につなげていきたいと思います。」「保全活動について、もっと色々なことを学びたいと思った。色々な人と協力して、次からの野外講座も頑張ろうと思った。」といった、非常に前向きな回答が複数寄せられ、参加者の皆さんの成長に加え保全活動地の今後が期待される講座となりました。